

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代オランダ語の親族名称
Author(s)	藪下, 紘一
Citation	ニダバ , 15 : 58 - 60
Issue Date	1986-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047176">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047176</a>
Right	
Relation	



## 現代オランダ語の親族名称

藪 下 紘 一

はじめに

今までアイスランド語、ノルウェー語、デンマーク語、そしてスウェーデン語の親族名称を調べてきたが、今回はオランダ語の方ではどうなるか調べてみた。

調べるに当たっては駐日オランダ大使館文化部に問い合わせ、間違いのないようにしたつもりだが、それでもどこかにまずい点があるやもしれない。その責任は総て私にある。

本稿は、何か新発見があるとか、別の視点から見ると、ある現象がよく理解できるといった類のものではなく、ただ親族名称について記述したにすぎない。

## I. 父方の親族

「先祖」を示すのは単数で *voorvader*、複数で *voorvaders* と *-s* がつく。「曾祖父」は *overgrootvader*、「曾祖母」は *overgrootmoeder*、「曾祖父母」は *overgrootouders* となる。*ouders* は「両親」の意味だが、*-s* のついていない *ouder* という語があって、これは「父又は母」のどちらかを表わす。そして上記語形の中の *-groot* はドイツ語の *Gross-* と同根である。又 *over-* はこれ又ドイツ語の *über* と同根になる。

それで「父」は *vader*、「父の姉妹」は *tante*、「父の兄弟」は *oom*、*oom* のつれ合いは *tante* となる。図表にはのっていないが「父の姉妹のつれ合い」も *oom* となる様である。

「オジ・オバ」の子供は、男が *neef*、女が *nicht* で、これもドイツ語の対応語を探す必要がない。又図には書かなかったが、辞書には、「オジ・オバ」の男の子には *oomzegger*、女の子には *oomzegster* という語ものっているが、この二語についてはオランダ人にきいてみたが、何んのことだかわからなかったようだ。

そして最後に *neef* の子供は、男女それぞれ *achterneef*、*achternicht* となるようで、間違いのないようだ。

## II. 母方の親族

母方の親族名称も父方の場合と同じである。図表を見ればそれがすぐわかる。

### III. 「私」の世代を中心に

私には兄弟がいる。この「兄弟」という語が日本語では「姉妹」をも指すのだが、さてオランダ語ではどうかとみると、broer(s) en zuster(s) となる。

「私の兄弟」は broeder 又は broer で、その配偶者は zuster である。その間に生まれた子供達は、男で neef, 女が nicht となる。

「私の姉妹」は zuster で、その配偶者は zwager, その間にできた子供達は、男が neef, 女が nicht, 両方合わせて zusterkind となる。

私は結婚する。「妻」は vrouw。そして妻の兄弟は男が schoonbroer, 女が schoonzuster である。又妻の両親は schoonouders で、父と母はそれぞれ schoonvader, schoonmoeder となる。私と妻は「夫婦, echtbaar」である。

### IV. 子供達の世代及びそれ以後

夫婦の間に子供 ( kind ) が生まれる。息子なら zoon, 女は dochter。娘の夫は schoonzoon で、その間にできた子供が、男なら kleinzoon, 女ならば kleindochter である。

息子の妻は schoondochter。そして息子の妻の兄弟等についてはもはや特別の呼び名はない。

息子夫婦に孫 ( kleinkind ) が生まれる。男なら kleinzoon, 女なら kleindochter である。孫に子供 ( achterkleinkind ) ができて、男は achterkleinzoon, 女で achterkleindochter である。

### おわりに

オランダ大使館の文化部の方 (日本人男性) は、「また、こちらのオランダ人の一致した言によれば、オランダ語にはこのような親族関係を示す単語が非常に少ないとのことでした。」とも書いてあった。

然し、私見だが、今まで調べてみた諸言語と比して特に少ないとは思われない。これらの言語でも又そういう単語はあるが、殆ど使われない、といったことなのかもしれない。

さなきだに個人主義で有名な国々であってみれば、親族とか血族関係といったものについても意識が薄くなってしまいうようである。

### 参考文献

Langenscheidts Taschen Wb. der niederl. u. dt. Sprache, Berlin u. München 1975

Van Goors Klein ZWEDS woordenboek, Amsterdam / Brussel 1978

